

第1学年 国語科学習指導案

1組 計24人（男子12人，女子12人）

指導者 田代祥太

1 単元 本をえらんでよもう

（教材「ずうっと，ずっと，大すきだよ」光村1年下）

2 単元の目標 本を選び，想像を広げながら読み，選んだ本について，気に入った場面を紹介することができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	C 読む能力	言語についての知識・理解・技能
進んで本を選び，想像を広げて楽しく読み，気に入った場面を見付けようとしている。	<ul style="list-style-type: none">場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。【(1)ウ】文章の内容と自分の経験や読書体験とを結び付けて，気に入った場面を発表し合っている。【(1)オ】楽しむために，読みたい本を選んで読んでいる。【(1)カ】	言葉には，事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付いている。【(1)イ(ア)】

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは，第1学年「ゆうやけ」の学習において，「きつねの子シリーズ」を読み，好きな登場人物を選び，その人物の行動を捉えて想像を広げながら読んだり，「くじらぐも」の学習において，場面の様子を想像し，その様子が表れるように音読したりする学習に取り組んできた。

そこで，本単元においては，「C読むこと ア 本や文章を楽しんだり，想像を広げたりしながら読む」言語活動として，『おはなしボックス』でお気に入りの場面を紹介する」活動を位置付ける。三角柱型の「おはなしボックス」の側面には，「選んだ本の題名と作者」，「お気に入りの叙述とその理由」，「想像した登場人物の会話や心情」の3点を書くようにする。そのために，読みたい本やその本の気に入った場面を，理由と根拠をもって自分で選んだり，場面の様子について，想像を広げて読んだりすることができるようにする。

この学習は，場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む教材『たぬきの糸車』光村1年下」の学習につながっていく。また，場面の様子について想像を広げ，楽しみながら読むという学習は，3学期の校内読書旬間や今後の読書生活につながっていく。

(2) 教材について

教材「ずうっと，ずっと，大すきだよ」は，人間にとって身近な存在である犬と少年との心の交流が描かれている作品である。主人公「ぼく」は，愛犬エルフをその死に至るまで親友として愛し，慈しみ続けていたことが，「ぼく」の回想の形で展開されている。読み手は，「ぼく」の優しさにひかれたり，エルフの死に悲しみを覚えたりすることが考えられる。また，多くの挿絵が想像を広げるための手掛かりになっている。さらに，子供にとって身近な登場人物や出来事が描かれているという点において，これまでの生活経験や読書体験と結び付けながら読むことができる作品となっている。

これらのことから本教材は，気に入った場面を見付け，場面の様子について想像を広げ，楽しみながら読むという学習に適した教材である。

(3) 子供の実態（調査日 平成 29 年 8 月 21 日 調査人数 24 人）

本単元の内容に関わる子供の実態については、以下のとおりである。（数字は人数）

【調査 1】文学的文章の解釈に関する能力【叙述を基に場面の様子を読むことができる】
叙述を基に場面の様子を読むことができる。(18) 叙述を基に場面の様子を読むことがもう少しである。(6)
【調査 2】文学的文章の解釈に関する能力【叙述を基に登場人物の心情を読むことができる】
叙述を基に登場人物の心情を読むことができる。(16) 叙述を基に登場人物の心情を読むことがもう少しである。(8)
【調査 3】自分の考えの形成及び交流に関する能力【登場人物の言動と自分の経験を結び付けて考えることができる】
登場人物の言動と自分の経験を結び付けて考えることができる。(18) 登場人物の言動と自分の経験を結び付けて考えることがもう少しである。(6)
【調査 4】目的に応じた読書に関する能力【楽しむために本を選んで読むことができる】
楽しむために本を選んで読むことができる。(21) 楽しむために本を選んで読むことがもう少しである。(3)

5 指導に当たって

(1) 対話を重視した「学び合い」【研究内容 1】

ア 学年や学習内容に応じた対話を重視した「学び合い」の設定

中心人物である「ぼく」がエルフと一緒にしたことやエルフのためにしてあげたことから、「ぼく」のエルフに対する「大好きな気持ち」を見付ける「学び合い」を行う。前時において、「ぼく」のエルフに対する「大好きな気持ち」が分かる叙述に着目し、付箋紙を貼ったり、サイドラインを引いたりしている。さらに、そのときの「ぼく」の会話や心情を想像して付箋紙に書いて貼っている。そこで、本時におけるペアや全体での「学び合い」においては、「大好きな気持ち」が分かる叙述や、想像した「ぼく」の会話や心情とその理由や根拠を交流することで、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

イ 子供同士で考えを広げたり深めたりするための手立て

「ぼく」のエルフに対する「大好きな気持ち」が分かる叙述にサイドラインを引いたり、想像した「ぼく」の会話や心情を吹き出し型の付箋紙に書いて貼ったりすることで、思考の可視化を図り、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また、さらに、想像した「ぼく」の会話や心情が、挿絵からの想像に偏り、根拠が不明確な場合は、「どの文からそう考えたのですか。」等の問い返しを行うことで、叙述を根拠に想像することの大切さに気付くことができるようにする。

(2) 学びの自覚を促し、次につなぐ学習指導の工夫【研究内容 2】

ア 学びの自覚を促す手立て

「つかむ・見通す」過程において、学習計画表を基に、全文を通して「ぼく」のエルフに対する「大好きな気持ち」を読み深めることを確認し、本時の学習への課題意識をもつことができるようにする。また、本時の課題解決に向け、どのように学習を進めるのか、電子黒板に提示された学習の進め方を基に全体やペアで確認し合うことで、子供一人一人が見通しをもって本時の学習に臨むことができるようにする。さらに、「まとめる・広げる」過程では、「学び合い」を通して広がったり深まったりした考えを自分の言葉でまとめる。まとめた考えを交流しながら、「ぼく」のエルフに対する「大好きな気持ち」が分かる叙述を見付けることができた子供や、「ぼく」の行動から、会話や心情を想像できた子供に対して価値付けを行うことで、自分が身に付けた力に気付き、自己の学びを自覚することができるようにする。

イ 次につなぐ手立て

「高める・味わう」過程において、「おはなしボックス」のモデルを再度提示しながら、側面に書いてあることと、本時のまとめを比較することで、「おはなしボックス」には、「ぼく」の行動描写や叙述から想像した会話や心情を書けばよいことに気付かせ、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の「おはなしボックス」を作ることができそうだという見通しと意欲をもたせ、次時につなぐことができるようにする。

6 指導・評価計画（全10時間）

重点評価項目

過程 (時)	言語 活動	主な学習活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 単元を通して解決していきたい問い </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 主な一単位時間の学習課題 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> まとめの表現例 </div>	教師の指導・評価 ◇ICT活用
<p>つかむ・見通す(2)</p> <p>調べる・深める(5)</p> <p>まとめる・守る(2)</p> <p>高める・味わう(1)</p>	<p>「読むこと」ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む言語活動」の『おはなしボックス』をつくらう」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 人と動物の交流を描いた絵本の読み聞かせを聞き、感想を交流する。 2 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の読み聞かせを聞き、感想を交流する。 3 「おはなしボックス」のモデルを見て、お気に入りの場面を見付けるために、どこに着目して読めばよいかという課題について話し合う。 4 単元の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">お気に入りのお話を想像しながら読み、「おはなしボックス」で友達に紹介しよう。</div> 5 単元の学習課題の解決に向けて課題を出し合い、「単元を通して解決していきたい問い」をもつ。 6 学習計画を立てる。 7 全文を通読し、あらすじを捉える。 8 「ぼく」がエルフを好きだと分かる叙述を見付ける。 9 「ぼく」がエルフを好きだと分かる叙述について、全体で交流する。【本時】 10 「ぼく」がエルフを好きだと分かる叙述から一番のお気に入りの選ぶ。 11 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の「おはなしボックス」を作る。 12 自分が選んだ本の中から、お気に入りの場面を選ぶ。 13 自分が選んだ本の「おはなしボックス」を作る。 14 友達の「おはなしボックス」を読んで思ったことやよいところを見付け、伝え合う。 15 本単元の学習を振り返り、自己の学びのよさや課題を自覚する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「おはなしボックス」でお気に入りのお話を友達に紹介したいな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お気に入りの場面を見付けるためには、お話のどこに注目して読めばよいのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「ずうっと、ずっと、大すきだよ」はどんなお話かな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「ぼく」がエルフを好きなことを教えてくれるお話です。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「ぼく」がエルフが好きなことが分かる文はどこにあるのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「ぼく」がエルフと一緒にしたことやエルフのためにしたことの中に書かれています。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">一番のお気に入りの文はどの文かな。どうしてこの文がよいと思ったのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お気に入りのわけは、感想の言葉を使って表すことができます。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「おはなしボックス」には何を書けばよいのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">本の題名、お気に入りのところとわけ、人物が言ったことを想像して書けばよいです。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">友達は、どんな「おはなしボックス」を作ったのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">この学習で、何が分かり、どんなことができるようになったのかな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本や教材文の読み聞かせを聞いたり、「おはなしボックス」のモデルを見たりして、「おはなしボックス」で、お気に入りの本を紹介したいという意欲を高め、「単元を通して解決していきたい問い」をもつことができるようにする。 ○ 学習課題をつかみ、学習計画を立てることで、見通しをもって学習に臨むことができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">本を選んで、想像を広げて楽しく読み、お気に入りの場面を見付けることに興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度：ノード】</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を通して、「人と動物の交流を描いた絵本」の並行読書に取り組むことで、自分で読みたい本を選んで読み、お気に入りの本を見付けることができるようにする。 ◇ 単元を通して、電子黒板を使って学習の進め方を提示することで、学習の方向付けを促し、課題解決への見通しをもつことができるようにする。 ○ ワークシートを使って挿絵をお話の順に並べたり、変わっていくエルフの様子を確認したりすることで、あらすじを捉えることができるようにする。 ○ 「ぼく」のエルフに対する「大好き」を見付ける「学び合い」を行うことで、中心人物である「ぼく」の行動に着目し、想像を広げて読むことができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。【読む能力：「学び合い」、付箋紙、ワークシート】</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 適時、五観点による自己評価を行ったり、学習内容の成果を価値付けする振り返りの場を設定したりすることで、自己の学びを自覚することができるようにする。文章の内容と自分の経験や読書体験とを結び付けて、気に入った場面を発表し合っている。 【読む能力：「学び合い」】 ○ 本単元において学習したことや身に付いたことなどについて振り返ることで、自己の学びのよさや課題、今後の読書生活で生かしたいことなどについて自覚できるようにする。

7 本時 (5 / 10)

(1) 目標 「ぼく」のエルフを大好きな心情について、行動から想像を広げて読むことができる。

(2) 展開 □ 教師の言葉掛け [] 子供の反応 [◆] 重点評価項目 ☆ICT 活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
つかむ・見通す (5)	<p>1 これまでの取組を想起し、本時の学習内容について話し合う。</p> <p>前時は、「ぼく」のしたことから、「ぼく」の「エルフ大好き」をいろいろ見付けたよ。</p> <p>友達はどうな「大好き」を見付けたのかな。</p> <p>2 本時の学習課題を立てる。</p> <p>お話の中には、「ぼく」のどんな「エルフ大好き」があるのかな。</p>	<p>○ 学習計画表で、前時の学習の振り返りと単元全体における本時の位置付けを確認することで、本時の学習への課題意識を高めることができるようにする。</p> <p>☆ 電子黒板を使って、本時の課題解決に向け、どのように学習を進めるのか全体で確認し合うことで、子供一人一人が見通しをもって本時の学習に臨むことができるようにする。</p>
調べる・深める (20)	<p>3 解決の見通しを全体で確認する。</p> <p>4 「ぼく」のエルフが大好きな気持ちについて、ペアで話し合う。【ペアでの「学び合い」】</p> <p>「ぼく」の、どの行動から「エルフ大好き」を見付けたか。友達と自分の考えの同じところや違うところを見付けながら話し合しましょう。</p> <p>「ぼくらはいっしょにゆめを見た。」って書いてあるでしょ。いつも一緒に寝るくらい大好きなんだよ。そのとき「ぼく」は、きっと「エルフのお腹は温かいなあ。」って言っていると思うよ。</p> <p>「エルフをじゅういさんにつれていった。」と書いてあるでしょ。大好きだからエルフのことが心配なんだよ。そのとき「ぼく」は、きっと「エルフ、早く元気になって一緒に遊ぼうよ。」って言っていると思うよ。</p> <p>5 「ぼく」のエルフが大好きな気持ちについて、全体で話し合う。【全体での「学び合い」】</p> <p>「ぼくは、エルフにやわらかいまくらをやって (中略)」と書いてあります。ここに「ぼく」の「エルフ大好き」があります。</p> <p>(似ていて) わたしも同じところなんだけど、理由が違いました。エルフが元気なときは、エルフのお腹を枕にしていたけど、今は柔らかい枕をあげているから大好きなんだと思いました。</p> <p>(しかも) 「ぼく」は寝る前には必ず「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」って言ってあげています。</p> <p>(ほかにも) 「ぼく」はとなりの子が子犬をくれるって言ったのに、いらないって言っています。そのとき、ぼくはきっと「今はエルフとの思い出を大切にしたい。」って言っていると思います。</p>	<p>○ 「エルフ大好き」が分かる「ぼく」の行動描写にサイドラインを引き、そこから想像した「ぼく」の会話や心情は吹き出し型の付箋紙を活用することで、思考の可視化を図り、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>○ 『「学び合い」想定シート』を基に、「どの文からそう考えたのかな。」と、根拠を明らかにして話し合わせたり、関連する発言をつなげたりすることで、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>○ 全体での「学び合い」の中に適宜、短時間のペアでの「学び合い」に取り組むことで、自分の考えを整理した上で、全体での「学び合い」に取り組むことができるようにする。</p>
まとめる・広げる (10)	<p>6 お話の中で「ぼく」のエルフが大好きな気持ちが一番分かる叙述を選び、自分でまとめる。</p> <p>7 まとめを交流し、本時の学びを自覚する。</p> <p>「ぼく」は、エルフのことが大好きだよ。(「ぼく」の行動) するくらい大好きだよ。そのとき、「ぼく」はきっと、(想像した「ぼく」の心情) って言っていたと思うよ。</p> <p>8 次時の学習で行いたい活動を見通す。</p> <p>今日の学習のまとめと先生が作った「おはなしボックス」に書いてあることは似ているな。次の時間は「ずうっと、ずうっと、大すきだよ」の「おはなしボックス」が作れそうだよ。楽しみだな。</p>	<p>○ 想像した「ぼく」の会話や心情が、挿絵からの想像に偏り、根拠が不明確な場合は、「どの文からそう考えたのですか。」等の問い返しを行うことで、叙述を根拠に想像することの大切さに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 振り返りの際、「ぼく」の「エルフ大好き」が分かる叙述を見付けることができたまとめや、「ぼく」の行動から、会話や心情を想像できたまとめに対して、問い掛けや価値付けを行うことで、自分なりの読みに気付かせ、自己の学びを自覚することができるようにする。</p> <p>◆ 「ぼく」のエルフが大好きな心情について、「ぼく」の行動から想像を広げて読むことができている。 【読む能力：教科書、ノート】</p> <p>○ 「おはなしボックス」のモデルと、本時のまとめを比較することで、「ずうっと、ずうっと、大すきだよ」の「おはなしボックス」を作ることができそうだという見通しと意欲をもたせ、次時につなぐことができるようにする。</p>

